

2018年(平成30年)12月期
第1四半期(1月1日～3月31日)
連結決算の概要

花王株式会社

2018年4月27日



KaO

自然と調和する ころ豊かな毎日をめざして

このプレゼンテーション資料はPDF形式で当社ウェブサイトの『投資家情報』に掲載しています。

<http://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/presentations/>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 2018年(平成30年)12月期第1四半期より、以下の通り変更しています。
 1. ビューティケア事業を化粧品事業とスキンケア・ヘアケア事業に区分し、従来4区分としていた報告セグメントを5区分に変更しています。
 2. 従来、スキンケア・ヘアケア製品に分類していた乾燥性敏感肌ケア「キュレル」を化粧品事業に、ヒューマンヘルスケア事業に分類していたメンズプロダクト「サクセス」をスキンケア・ヘアケア事業に組み入れたことにより、前年同期の売上高及び営業利益を組み替えて表示しています。
 3. 日本のコンシューマープロダクト事業の販売組織を再編したため、前年同期の営業利益を組み替えて表示しています。
- 資料のカッコ()内の数字はマイナス

2018年1-3月の概況

厳しい競争環境が続く中、想定通りのスタート。4月以降にウェイトを置いた新製品・改良品の発売により、通期業績予想達成を目指す。

➤ 化粧品事業

新体制のもと、アジアおよびキュレル、SUQQUブランドが引き続き好調。中価格帯の費用効率化により大きく収益性を改善。今後はK20達成に向けて、日本で中価格帯及び高価格帯の構造改革を進める。

➤ スキンケア・ヘアケア事業

スキンケア製品のビオレが日本とアジアで順調も米国では競争激化により苦戦。米国のジャーゲンスが伸長。一方、欧州ヘアケアのジョン・フリーダは引き続き競争激しく苦戦。

➤ ヒューマンヘルスケア事業

ベビー用紙おむつメリーズが、中国の販売構造改革による前年同期の初期配荷の影響等により、売上は前年割れ。生理用品ロリエと蒸気の温熱シートめぐりズムの伸長により増益。

➤ ファブリック&ホームケア事業

ファブリックケア製品は厳しい競争環境の中、売上は前年並みに推移。ホームケア製品は堅調。競争激化と原材料価格の上昇や有形固定資産の除却損等により減益。

➤ ケミカル事業

油脂製品及び機能材料製品は、需要堅調により売上伸長。スペシャルティケミカルズ製品は、昨年4月から連結子会社となった欧州インク事業会社の貢献により伸長。原料価格の変動に伴う販売価格改定の影響等により減益。

連結決算のハイライト

市場^{※1} (2018年1-3月)

・国内トイレタリー市場伸長率^{※2}: SRI 横ばい / SCI 横ばい

・国内化粧品市場伸長率^{※3}: 横ばい

・国内トイレタリー15カテゴリー消費者購入単価^{※4}: +1ポイント

(インバウンドは大きく伸長)

連結経営成績 第1四半期連結累計期間 (1-3月)

【億円】	2017年度	2018年度	前年比%	前年差
売上高	3,452	3,506	+1.6	+55
		為替の影響 ^{※5}	+0.6	+22
		為替の影響を除く実質	+0.9	+32
営業利益	386	394	+2.2	+8
営業利益率	11.2%	11.2%	-	-
税引前利益	380	387	+1.7	+6
当期利益	246	282	+14.3	+35
親会社の所有者に帰属する当期利益	242	278	+14.9	+36
EBITDA(営業利益+減価償却費+償却費)	517	540	+4.4	+23
基本的1株当たり当期利益(円)	49.03	56.36	+15.0	+7.33

※1 SRI: 全国約4千店の小売店POSデータによる推計 / SCI: 全国約5万人の消費者モニターによる購入実績データ / SLI: 全国約4万人の女性モニターによる化粧品・スキンケア・ヘアケア製品の購入実績データ [(株)インテージが実施するパネル調査]

※2 化粧品を除くコンシューマープロダクツ。対前年同期比。[SRI/SCI調べ]

※3 対前年同期比。[SLI調べ](花王定義にて集計・インバウンド分は調査対象外)

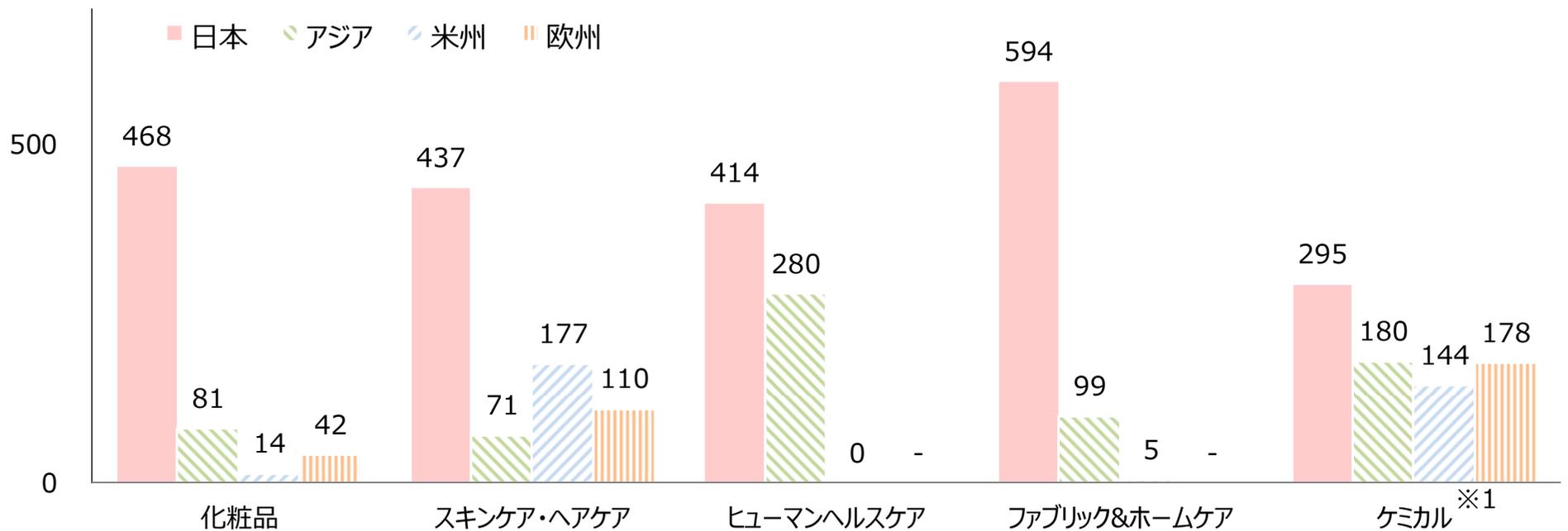
※4 対前年同期比。(2008年1-12月を100とした指数ベース) [SRI調べ]

※5 為替レート: 米ドル=108.44円 / ユーロ=133.23円 / 中国元=17.04円

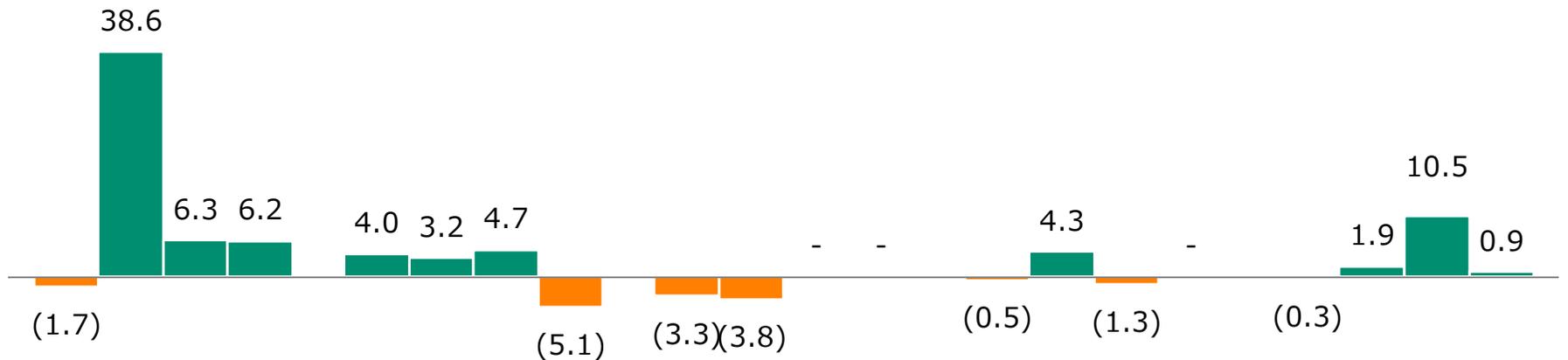
販売実績

2018年度 第1四半期連結累計期間 (1-3月)

売上高(億円)



対前年
実質増減
率(%)^{※2}



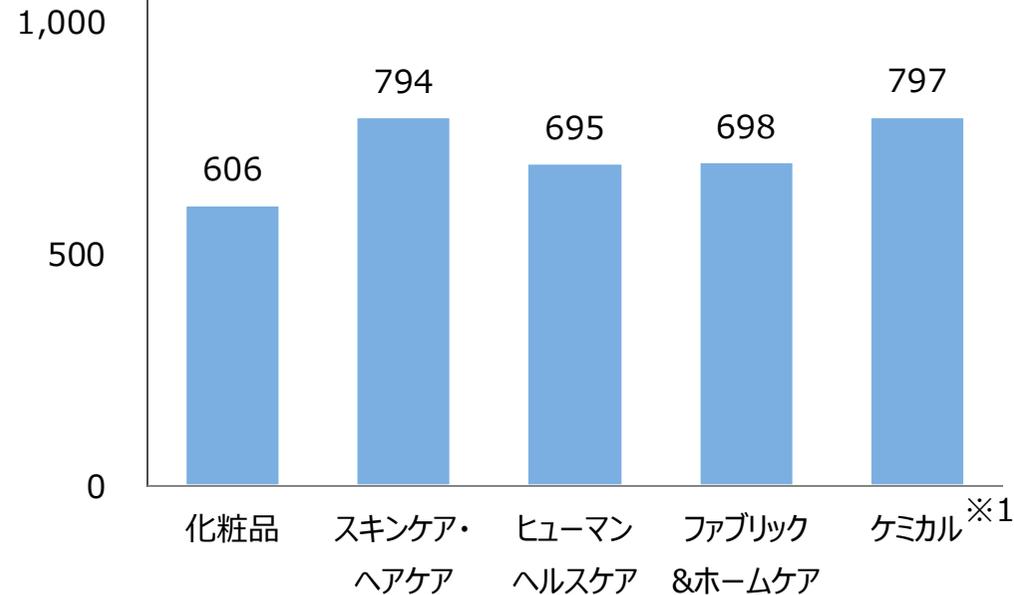
※1 ケミカル事業の売上高はセグメント間取引を含んでいます。

※2 為替変動の影響を除く実質増減率。

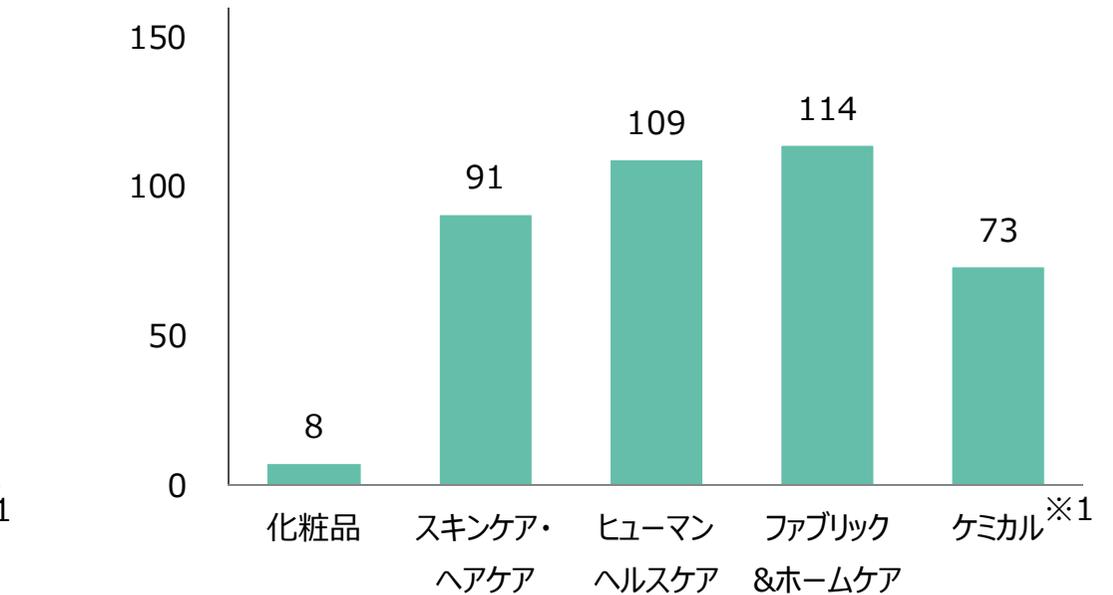
セグメントの業績

2018年度 第1四半期連結累計期間 (1-3月)

売上高(億円)



営業利益(億円)



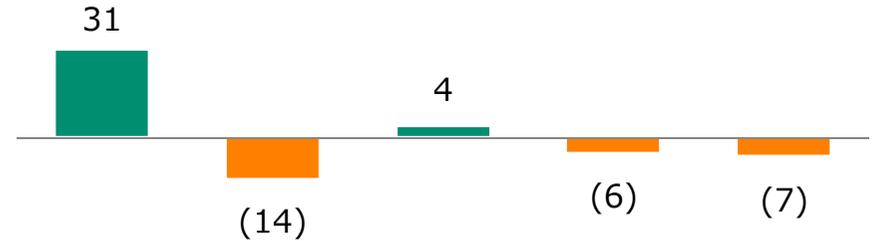
営業利益率(%)

1.3 11.5 15.7 16.3 9.2

対前年
実質
増減率
(%)^{※2}



対前年
増減
(億円)



※1 ケミカル事業の売上高・営業利益はセグメント間取引を含んでいます。

※2 為替変動の影響を除く実質増減率。

連結営業利益増減分析

【億円】

第1四半期連結累計期間 (1-3月)

2017年度

386

売上数量増

+0

原材料価格変動の影響(ネット)

Δ 10

コスト削減(TCR)

+10

販売費及び一般管理費の増減[※]

+40

運送費/物流費

Δ 10

構成差/為替差ほか

Δ 22

+8

2018年度

394

※ 為替変動の影響を除く実質増減。